

NEWS LETTER

まい研

2008年
11月5日
第34号

まいづる市民自治研究所/まい研

〒624-0822 舞鶴市字七日市 322-8 (品田茂宅)

Tel&Fax 0773(75)5753

E-mail maiken2005@zeus.eonet.ne.jp

◆「まい研」第15回定例会◆

『話し合い』と『学習』が平和な社会をつくる原動力!

～品田茂さん(浮島丸殉難者を追悼する会)～

まい研の第15回は定例会を品田茂さん(浮島丸殉難者を追悼する会)をゲストに迎え、「浮島丸事件と出会って、学んだこと」をテーマに、10月21日(火)に商工観光センター4F会議室1で開催しました。

◆「浮島丸事件」との出会い

1995年に舞鶴で1000人規模の映画のロケの手伝いが、品田さんと浮島丸事件との出会いであり、その映画の題名が「エイジャン・ブルー 浮島丸サコン」。

ある日、品田さんが下佐波賀にある浮島丸殉難者追悼公園の掃除に参加し、「追悼する会」会長の野田幹夫さんと事務局長の須永安郎さんという2人のおじさんが黙々と雑草とりをされ、その姿を見ながら、不思議に感じる事がいっぱいあったそうです。「なぜ、身内でもないのに顔も知らない人々の供養を続けているのだろうか」、「そもそも浮島丸事件とは、どんな出来事だったのだろうか」



「浮島丸事件」を語る品田さん

◆浮島丸事件とは

今から63年前の1945年8月15日、中国やアメリカと戦争をしていた日本の敗戦で戦争が終わった日、海軍の輸送船である「浮島丸」が、空襲で沈んでしまった青函連絡船のかわりに乗客を運んで津軽海峡を航行していました。

浮島丸が母港の青森県・大湊港に帰ると、海軍から「青森県の朝鮮人を朝鮮・釜山に運ぶように!」と命令が出され、8月2日夜の午後10時、真っ暗な大湊港を出発して、浮島丸は釜山をめざして航行しました。

浮島丸には、戦争中に青森県で働いていた朝鮮人とその家族で、たくさんの女性や子どもも含め、ふだんは乗客を乗せることもない倉庫や船底までも6000人から8000人くらいの乗っていたといえます。

(裏面に続く)

「まい研」の第4回総会の案内

1. 日時 **11月12日(水)19:00~21:00**
2. 場所 **西駅交流センター3F会議室2**
3. 内容 **活動の総括と今後の計画、会計報告
役員選出、会員からひと言 など**
4. 特別企画
 - ・舞鶴市民病院をめぐる取り組みについて
 - ・報告者 **瀬尾純爾さん**

(市民病院問題と地域医療を考える市民の会 事務局)

(表面から)

ところが、若狭湾沖まで来た24日、浮島丸は突然に方向を変え午後5時すぎに舞鶴湾に入り、その直後に大爆発。爆発現場は浜辺から300mの近さ。爆発によって浮島丸は、鉛筆を折ったように真ん中にポキンと二つに折れ、人々は海に放り出され、船からこぼれ出した重油のために顔や手も真っ黒になりながら人々は海岸をめざして泳ぎました。家族を捜したが見つからず、力尽きておぼれてしまった人もあり、船内に閉じ込められたまま沈んでしまった人も多数いました。

亡くなった人は数百人とも、数千人ともいわれ、近くの海岸には何日も何日も真っ黒な遺体が打ち上げられました。暑い夏のことだったので遺体はすぐに腐りはじめ、異臭のために近くの村では雨戸も開けられないほどでした。

しかし爆発原因をはじめ謎がいっぱいで事件の真相が明らかになっていません。

舞鶴の市民団体「浮島丸殉難者を追悼する会」では、事件を語り伝えるモニュメント「追悼の碑」をつくり、毎年8月24日に亡くなった人々の追悼集会を開いています。



品田茂さんの本

◆浮島丸事件を知ることの大切さ

現在の世界は、国と国との結びつきが強くなり、特に、地理的経済的な理由から日本と中国、韓国との結びつきは急速に深まっています。

しかし、日本と中国、韓国・朝鮮との間には、「歴史問題」の存在が鋭い亀裂となっています。歴史問題とは、南京大虐殺、強制連行、植民地支配そして浮島丸事件など未解決の問題です。

2005年3月1日、韓国のノムヒョン大統領は、歴史問題の解決を願う呼びかけで次のような演説をしました。「日本の知性に訴えます。真実の自己反省の土台の上に韓日間の感情的なしこりを取り除き、傷口が癒えるようにするため、先に立っていただかなければなりません。そうしなければ、過去からの束縛から抜け出すことはできません」

国レベルでは、真相究明、謝罪、補償が必要です。

市民レベルでは、日本と中国、韓国・朝鮮との間の「戦争と植民地の歴史」を学ぶことが、東アジアの人々の人間的な信頼を築くために必要と思っています。

品田さんからの「なぜ舞鶴で起こった浮島丸事件をみんなに知ってもらいたいかな」を聞き、参加者からは、「実体験を語る人が生きていることが大きな驚きだ。風化させてはいけない」、「浮島丸事件で学んだことは、『話し合い』と『学習』が平和な社会をつくる原動力である」などと話し合われました。

「まい研」の第16回定例会の案内

1. 日時 **12月9日(火)19:00~21:00**
2. ゲスト **三川讓二さん**
(国立舞鶴工業高等専門学校教授)
3. テーマ **旧軍港市転換法の成立**
4. 場所 **西駅交流センター2F会議室1**

お知らせ

「行け行け！かまぼこ調査隊」

4月から取り組んでいる「舞鶴のかまぼこ」をテーマにした「地域調査」の調査結果・提言・フォーラムなどの内容をまとめた

「かまぼこ報告書」を発行しました。

(詳しくは事務局まで)



